



フルテックのNCF採用信号系プラグ第2弾 バランスケーブルの実力を飛躍させる 革命的な最上位XLRプラグが遂に登場

電源系や周辺アクセサリで大好評を得る、特殊素材NCFを用いた初の信号系端子として、抜群の性能で評価される最上級RCAプラグ「CF-102 NCF(RCA)」。それに続く、待望の最上級XLRプラグも完成した。今回、現状のXLRケーブルの製品動向と内包される課題を明らかにしつつ、このNCF採用XLRプラグが、どれだけ価値のある製品化であるのか。また課題をいかに克服し、その成果は音にどう現れているのかを探った。完成品ケーブルは発売未定でプラグのみ今秋に先行発売のため、従来端子とNCF端子を装着した同じケーブルで比較試聴レポートをお届けする。

Photo by 田代夫生



FURUTECH CF-602F NCF (R)

ハイエンド・グレード XLRプラグ(メス)
¥17,380・税込(1本)

Specifications

●導体部：純銅素材のα(アルファ)-導体、非磁性ロジウムメッキのワンピース構造の導体ピン●ボディ部：特殊な「NCF」反共振減衰素材(ナイロン/ガラスファイバーにナノサイズの結晶性セラミックパウダー&カーボンパウダーを配合)を耐熱性NCF液晶ポリマー樹脂と組み合わせ●ハウジング：マルチマテリアルハイブリッドNCFカーボンハウジング(外側のハードクリアコートとその下のハイブリッドNCFシルバークarbonファイバーの別の層で構成)、内部は非磁性ステンレスハウジング●導体線結線方式：ネジ止めまたはハンダによる結線●適応最大ケーブル径：10.0mm●適応導体ワイヤーサイズ：導線→13AWG (2.62 sq.mm) MAX、単芯→12AWG (3.3 sq.mm) MAX、線径→2.4mm MAX●サイズ・質量：[CF-601M NCF (R)]→全長約18.6φ×64.6mm、約46.9g、[CF-602F NCF (R)]→全長約18.6φ×70.85mm、約58.2g

FURUTECH CF-601M NCF (R)

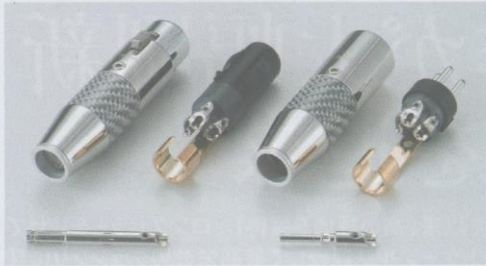
ハイエンド・グレード XLRプラグ(オス)
¥15,180・税込(1本)

インターコネクトケーブルは、プラグの性能が最も重要である。ケーブル全体の音質に与える重要度は、ケーブルとプラグで50%ずつあると筆者は考える。ケーブルを高性能化しても、最終的にはプラグが作用して性能を決定し合成立たされた結果となる。特に高級オーディオで使われるXLRケーブルはこれまで、あと一歩の性能不足で残念な思いを感じてきた。その原因は、プラグにあることを経験的に理解してきた。多くのXLRケーブルは、ノイトリック社の金メッキプラグを使うしか選択肢がなかったというのが現状だ。XLRでは、機器との適合性が重要な条件にもなるためだ。これは装着性のことで、プロの現場では簡単、確実という信頼性が重視されるのは当然のことである。しかし再生オーディオで高価システムを揃えるマニアが、XLRケーブルに満足できないという現実もある。

現状のXLRケーブル製品が課題としてきたのが端子だ



Text by
福田雅光
Masamitsu Fukuda



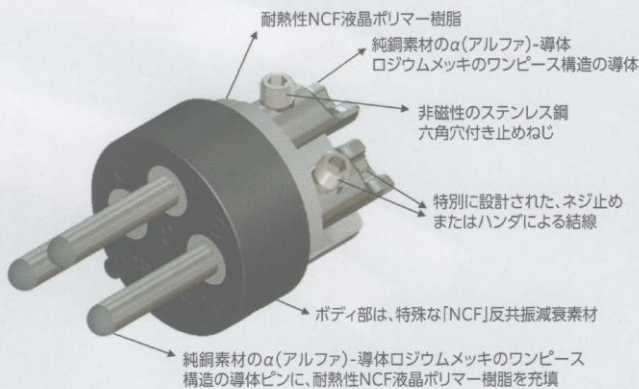
独自の工夫を盛り込んだ美しく精密な作りは実に見事で、結線作業の操作性も配慮されて製作意欲が掻き立てられる

● CF-601M NCF(R)のハウジング図
(CF-602F NCF(R)も同様)



アルミカラーリング
マルチマテリアルハイブリッドNCFカーボンハウジングは、外側のハードクリアコートとその下のハイブリッドNCFシルバーマッキ3kカーボンファイバーの別の層で構成。内部は非磁性ステンレスハウジング

● CF-601M NCF(R)のボディ部と導体構造図



耐熱性NCF液晶ポリマー樹脂
純銅素材のα(アルファ)-導体
ロジウムメッキのワンピース構造の導体
非磁性のステンレス鋼
六角穴付き止めねじ
特別に設計された、ネジ止め
またはハンダによる結線
ボディ部は、特殊な「NCF」反共振減衰素材
純銅素材のα(アルファ)-導体ロジウムメッキのワンピース
構造の導体ピンに、耐熱性NCF液晶ポリマー樹脂を充填

● CF-602F NCF(R)のボディ部と導体構造図



耐熱性NCF液晶ポリマー樹脂
制振弾性リードを装着。
特殊な「NCF」反共振減衰素材
ボディ部は、特殊な「NCF」反共振減衰素材
※特殊な「NCF」反共振減衰素材(ナイロン/ガラスファイバーに
ナノサイズの結晶性セラミックパウダー&カーボンパウダー調合)

りそうだ。高価なケーブルは存在しているが、その実力には本当に納得できているのだろうか。

**ネジ止め無ハンダ接続もできる
圧倒的な高音質仕様で設計**

そんななか、フルテックがXLRプラグに革命的な心血を注いだプラグを誕生させた。CF-601M NCF(R)と、CF-602F NCF(R)である。NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)を導入した最高級品であるが、それだけではなかった。これは圧倒的な高品質仕様を新規に投入した、構造も実に見事な設計である。

まず、注目したのは端子の作りだ。オス型は、純銅素材の中空ピンにロジウムメッキのワンピース

構造を、そして中空部には耐熱性NCF液晶ポリマー樹脂を注入した制振構造としてある。メス型も同様に、純銅導体にロジウムメッキのワンピース構造を採用する。そして驚いたことに、ワイヤー導体はハンダづけ方式に加えて、ネジ止め無ハンダ接続も可能にしていることである。無ハンダであるから、自作も容易だ。

また端子を固定しているボディ部の素材は、ナイロン、ガラスファイバー、セラミックパウダー、カーボンパウダーを調合した特別なNCF素材を採用。剛性、制振、静電気性能を強化している。

金属系の部品は全て超低温処理で物性を改善し、更にリング消磁処理を加え、残留する磁気を完全に排除。これらの処理工程をアルファプロセス処理と呼んでいる。

ハウジング(ケース)は、非磁性ステンレスをベースに、3層のマルチマテリアルハイブリッド構造を採用。外観構造もたいへん美しく豪華である。適応最大ケーブル径は10mm。接続導体サイズは撚り線径約2スケア、単線では2・1mm径(3・3スケア)である。

**格段に高純度で洗練された音
澄みきる空間に倍音が美しい**

試験にはフルテックのインターコネクトケーブルの現行製品、Lineflux(XLR)1・2mを比較用に用意し、同じケーブル部に新型プラグCF-601M NCF(R)とCF-602F NCF(R)を装着した状態のケーブルとで比較した。アキユフェーズのリアンプC-2900とパワーアンプP-4500間の接続に使う。

現行製品は低音の分離が良く、すつきりした抜けの良さや旋律の切れ味を出し、十分に解像度の高い内容であり、普通ならば納得できるはずだ。

ところが、新型は格段に音の純度を高め、洗練されたサウンドを聴かせてきた。高SN比で帯域はすつきり高域へ伸びきり、繊細な倍音成分を美しく表現してくる。空間表現力も澄みきり、声楽の遠近感がきれいに表現されている。また低音エネルギーの強力な躍動感も、瞬発性に優れて勢いがある。

**優れた端子のケーブルこそが
バランス伝送を高音質にする**

これは明らかに新型が高性能である。高音の一音一音まで、曖昧さがなく精度が高い。XLRプラグはこうでなければ。従来の多くのXLRケーブルは中間帯域までは良好でも、細部の表現力になると甘さや緩さを感じて完璧ではなかった。このようなXLRプラグが開発されて嬉しい。フルテックの努力は無論、無駄ではなかった。バランス接続伝送方式は、ノイズ排除性能は理論的には高く得られるが、実際の音質は接続に使うケーブルが関係し影響するため、簡単に最高の状態になる訳ではない。ここは誤解しないように。バランス方式が音質を高めるのではなく、その効果を最大に發揮させるのは、XLRケーブルのクオリティが支配しているのである。